

目 次

P.1 パルコと図書館

P.2-3 講演録『新紙幣の顔
「津田梅子」-女子高
等教育を切り拓く-』

P.4-6 図書館システムが
リニューアル！！

復刊 パルコと図書館



パルコと図書館

片岡 直子

近くのパルコが閉店し、淋しかったけれど、自分より周囲の落胆が大きいことに気がついた。子供の世代は、生まれた時から身近にパルコがあり、また、あると知って越してこられた方も同じかもしれない。

私はパルコのできる前の街を、辛うじて認識していて、新所沢のテラスハウスに住んでいた友達が、「今度、パルコができて、東京へ行かなくても、お店が揃うんだよ」と話していたことを覚えている。

ファッションに、そこまで興味はなかった私は、普通に「そうなんだ」くらいの反応だったと思う。

新所沢が最寄り駅のマンションへ越してきた時も、スーパーを含め、高価な品物を扱う建物との印象で、銀行のついでに立ち寄るくらいだった。

十六年ほど前、運動が足りないことに気がつき、「体育の時間」を作ってみようと、パルコのジムへ申し込んだところ、駐車場代を払う代わりに、買い物をするこになり、その頃には、それまで郊外にあったリ

ズナブルな服の店や、電気店なども入っており、買い物をして駐車場を出ることが、習慣になった。

化粧品も食料品もパルコで買うようになり、すべてを済ますようになると、知らない間に、籠の鳥のように、動く範囲が狭くなっていた。

ヨガを中心に通っていたジムの移動開店までの間、都心のジムへ通い、同じヨガでも、驚くほどのバリエーションを経験し、移転後はヨガのレッスンを少なくなるので、膝や腰を支える筋肉を育てるレッスンなども、体験している。新しい文具店やスーパーを開拓して、変化が常になり、パルコの無かった時代へ戻るだけと思っていた私にも、その先が拓かれ、躍動してしまっている。

そんなこの頃の心身を、ひととき休めるのは、木陰の公園かも知れないし、一番は、やはり図書館かも知れない。おまけにそこは再び、新たなステップへ進ませてもらえる提案に出会える。ジャンプ台のような場所でもある。もしも、図書館が存在しなくなったら、身近な誰より慌てるのは、私

ではないかしら。

呼吸のように、本を返しては借りている私には、紙の本が必須で、物体としての図書館に、いつまでもそこに在って欲しい。

現在、同じように願うのは、どれくらいの割合の人なのだろう。



片岡 直子 氏

1961年、入間市生まれの射手座。高校は川越市、所沢市在住。詩集に『産後思春期症候群』『素敵なともだち』『なにしても』(以上、書肆山田)、『晩熟』『曖昧母音』(以上、思潮社)。エッセイ集に『ことしのなつやすみ』(港の人)、『おひさまのかぞえかた』(書肆山田)。詩の授業、エッセイや文学散歩の講座など。

所沢図書館講演会

新紙幣の顔「津田梅子」

—女子高等教育を切り拓く— 講師 香川せつ子氏

令和6年3月15日（金）会場 所沢図書館 本館

グローバルゼーションと日本

これからは、グローバルゼーションの時代。トヨタ、ユニクロ等の企業が世界的に活躍する中、日本として見ると、政治的にも国民の意識的にも内向きで、海外留学する学生の数は減っているようです。新紙幣の顔に、西洋に学び近代的な制度を導入した3人の人物を選んだことは、グローバル化への意識を起こし「この気概を21世紀の日本に」という想いがあったのではないのでしょうか。その新しい紙幣の顔に選ばれた1人、日本初の女子留学生「津田梅子」に焦点を当てていきます。

津田梅子が生きた明治・大正

まず、津田梅子が生きた当時の日本の社会と教育についてお話しします。梅子は江戸時代末期の1864年（元治元年）に佐倉藩士津田仙の次女として生まれました。梅子が生まれた直後に発足した新政府は、近代国家建設を掲げ、急速な近代化を押し進めました。その後、日清・日露戦争が勃発するなど、社会が大きく変化する時代を、梅子はひとりの女性として生き抜きました。

1872年（明治5年）に学制が頒布され、男女・身分の別なく初等教育を受けられるようになりましたが、頒布から10年経っても、男女格差は残っていました。男子の小学校進学率が6割あったのに対し、女子の進学率は僅か2割でした。

岩倉使節団の欧米視察

1871年（明治4年）12月、梅子たち女子留学生は、岩倉具視、伊

藤博文、大久保利通らと共に、アメリカへ旅立ちました。一行は、翌年2月にアメリカに到着しましたが、留学生5人の内2人は、適応できずに、同年10月に帰国しました。残った梅子、山川捨松、永井繁子の3人は、のちに永遠の友情で結ばれることとなります。

留学先での恵まれた生活

梅子は渡米後、ランマン家に迎え入れられました。当時のアメリカにはまだ人種差別がありましたが、ランマン家は日本に対する偏見なく日本の少女を迎え入れてくれたのでした。ランマン家は、大金持ちではありませんでしたが、恵まれた中流階級であり、キリスト教の信仰心の強い家庭でした。

ランマン夫妻は梅子を非常に大らかに見守りながら、梅子に経済観念や自立心を身につけさせ、学校に通わせるだけでなく、美術館や旅行など様々な場所へ連れて行きました。7歳から18歳までの人間形成の重要な時期をランマン家で過ごした経験は、人間・津田梅子の基礎が出来るうえで大きな影響を与えました。

この生活の中で、「育ての親」とも言えるランマン夫妻と梅子は、非常

に深い信頼関係を築いていきました。このことは、後で紹介する手紙のやり取りの中にも表れています。

日本帰国

1882年（明治15年）、梅子は11年の留学を終え日本に帰国しました。帰国した梅子を悩ませたのは、日本語でのコミュニケーションがとれないことでした。これは、祖国のために何かをしたいと思いアメリカから帰ってきた梅子にとって、非常に大きな焦りに繋がりました。日本政府は、梅子の留学期間中の資金を支給していましたが、帰国後に留学経験を還元できる職場は用意されていませんでした。当時の日本は、女性の社会的地位だけでなく、家庭内でも地位が低い時代でした。そのような状況を変えるためには、やはり教育を変えていかねばならないと梅子に思わせました。

ランマン夫妻との文通

梅子は帰国してから1891年（明治24年）にかけて、アメリカのランマン夫妻と手紙による交流を行っていました。1984年（昭和59年）に、延べ450通もの梅子直筆の手紙が発見され、これらの手紙から当時の梅子が考えていたこと



について窺い知ることが出来ます。墨田川の花火大会、国内旅行に行ったことなどを日記風に書いているほか、華族女学校での教師生活についても綴っていました。また、もう一度、アメリカに行つて大学を出たい、もつと勉強をしたいという思いもよせられていました。

よき理解者との出会い

岩倉使節団で同行した伊藤博文は、梅子の才能と経験を活かす場を模索していました。1885年(明治18年)に、華族女学校が開校されると、梅子は英語の専門家としての高い能力を買われ、同校で奉職することとなりました。

華族女学校の副校長であつた下田歌子は10歳年長で、宮廷で女官を務めるなど、梅子と異なる経歴でしたが、二人は良好な関係を築きました。梅子は歌子のことを、これまで日本で出会つたことのない知性と教養を備えた女性と尊敬し、一方の歌子も、梅子の教師としての力量を評価していました。

梅子は、アメリカで専門的な知識をさらに深めることによつて教師としての力をつけ、日本の女子教育を変えていきたいという非常に強い志を持っていました。

現状を変えるためには、今のままでは限界があると考えた梅子は、歌子の理解もあり、華族女学校の教師として籍をおいたまま、1889年(明治22年)に2年間のアメリカ留学へ旅立つこととなりました。

再度のアメリカ留学

1889年(明治22年)にプリンマーカレッジへの留学を果たした梅子は、同校にて大学生活を送り、生物学の研究を行いました。この留学中にアメリカの女性たち、特にプリンマーカレッジ関係者たちと築いたネットワークは、帰国後に梅子が「女子英学塾(のちの津田塾)」を創立する際に、大きな役割を果たすことになるのです。

留学中の1891年(明治24年)にトーマス・モーガン教授との連名で発表した蛙の卵の論文は、日本人女性として初めて欧米の学術論文誌に掲載されるなど高い評価を受けました。科学者としての道を進むようにという推薦もありましたが、梅子はこれを辞し日本へ帰国しました。

女子英学塾の創立

1898年(明治31年)にアメリカで開催された万国婦人クラブ連

合会に参加し、その渡米中にヘレンケラーと対談しました。また渡米中にイギリスの女性たちからの招待状が届き、半年間イギリスの女子教育を視察することになりました。オックスフォード大学の聴講生として歴史や文学を学び、ナイチンゲールとの面会も果たして、エールを送られました。

日本帰国後の1899年(明治32年)に高等女学校令・私立学校令が施行され、女子教育への機運が高まると、梅子は「自らの学校」を開く活動を開始しました。学校の創立には梅子の貯金だけでは賄えず、アメリカのネットワークからの支援により1900年(明治33年)に「女子英学塾」の創立に至りました。創立にあたり掲げたのは「*III - rounded Woman* の育成」であり、「英語だけではなく、幅広く学んで教養を深め、人間性も豊かにしたうえで専門職業人として自立しなさい」という想いが込められています。

関東大震災と塾の復興

1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災で校舎が全壊し、塾は存続の危機に陥りました。既に梅子は塾長を辞していました。が、かつて梅子が築いたアメリカ女

性たちのネットワークの支援により、この窮地を脱しました。

小平で塾の復興と新校舎建設を進めていましたが、新校舎の完成前の1929年(昭和4年)に梅子は64歳で亡くなりました。

梅子の設立した「女子英学塾」は、太平洋戦争を生き延び、戦後の学制改革を経て「津田塾大学」となりました。

津田梅子の「男性と協同して対等に力を発揮できる女性の育成」という夢は、津田塾大学の掲げるスローガン「変革を担う、女性であること」として今も受け継がれています。

香川せつ子氏

津田塾大学学芸学部英文学科を卒業。教育史を専攻し、1998年西九州大学教授。2019年より西九州大学名誉教授。2020年から津田塾大学言語文化研究所、特任研究員として活躍。佐賀県男女共同参画審議会会長。佐賀県生涯学習委員会等を歴任。『下



田歌子と近代日本』(勁草書房)、『女性と高等教育』(昭和堂)等で執筆。

図書館システムがリニューアル！！



新しい形の読書が始まっています！



インターネットに接続したパソコンやスマートフォン、タブレット等の機器を利用した活字の読書【電子書籍】・耳による読書【オーディオブック】コンテンツがあります。小さな字が見えにくい方も気軽に読書を楽しむことができます。

オーディオブック・電子書籍を利用できる方

所沢市に在住または在勤・在学し、所沢市立図書館に利用登録している方。利用には利用券番号とパスワードの事前登録が必要です。

通信料は利用者負担となります。

電子書籍

- ・貸出冊数2冊、貸出期間2週間、予約は2冊までです。
 - ・利用期限日を過ぎると自動的に返却されます。
- ※コンテンツ数が少ないため、令和6年度は試行サービスとなります。



QRコードから、電子図書館の専用ページにアクセスいただけます。
パソコンの方は以下のアドレスをご利用ください。
<https://web.d-library.jp/tokorozawa/g0101/top/>



オーディオブック

- ・返却期限・貸出数に制限はありません。
- ・再生途中で画面を閉じてしまうと、次回は最初からの再生となります。
- ・同時に利用できる利用者数に制限がありますので、アクセスが集中している場合は、少し時間をあけてご利用ください。
- ・オーディオブックの著作権は、オトバンク社にありますので、録音等を行うことはできません。個人の利用目的のみ、オーディオブックを聴くことができます。



QRコードから、オーディオブックのページにアクセスいただけます。パソコンの方は以下のアドレスをご利用ください。

<https://www.tokorozawa-library.jp/contents/guidance/audiobook.html>



【オーディオブックの検索の仕方】

スマートフォンの場合

パソコン・タブレットの場合

キーワードを入力すると絞り込みができます

オーディオブックにチェックをいれてクリック

検索

検索結果一覧

検索へ戻る

条件：(すべて (全文) =太宰治)AND(資料種別 =オーディオブック)

検索ヒット件数：49

●：貸出可 ▲：予約可 ×：不可

1. 文豪たちの悪口本
オーディオブック 彩図社文芸部 / 著
彩図社 | 2019.05.28

2. あらすじで聞く 日本の名作文学傑作選 第3巻
オーディオブック 世界名作研究会 / 著
スマートゲート | 2017.06.01

クリック

タイトル

文豪たちの悪口本

著者

彩図社文芸部 / 著

出版者

彩図社

出版年

2019.05.28

再生時間

04:21:10

クリック!

オーディオブックを聴く

クリック!

オーディオブック

所沢市立 所沢図書館
Home / 利用案内 もくじ / オーディオブック

オーディオブック

オーディオブックのコンテンツ一覧は

こちら

クリック!

形態区分	タイトル	著者
オーディオブック ビジネス (805)	1 100万部超作家が教えるドラッカー流・就活 3つの心得	SKJP / 著
オーディオブック 自己啓発 (464)	2 100年以上の歴史が教える	SKJP / 著
オーディオブック 教養 (1093)	3 100年を超えて読むべき本	SKJP / 著
オーディオブック 語学 (392)	4 10万円と100万円の違いは使う	SKJP / 著
	5 10人の社長が語る、経営危機の乗り越え方	SKJP / 著

クリック!

書誌情報

タイトル	100万部超作家が教えるドラッカー流
著者	SKJP / 著 SKJP
再生時間	00:07:07
価格	¥30
内容紹介	このコンテンツを音声で

オーディオブックを聴く

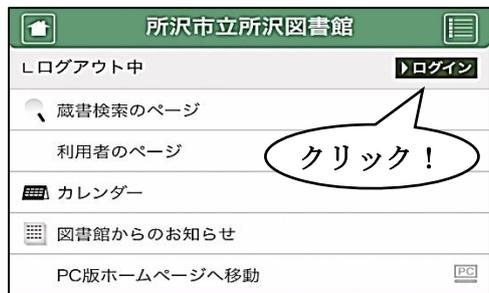
クリック!

ホームページからパスワードの登録ができます

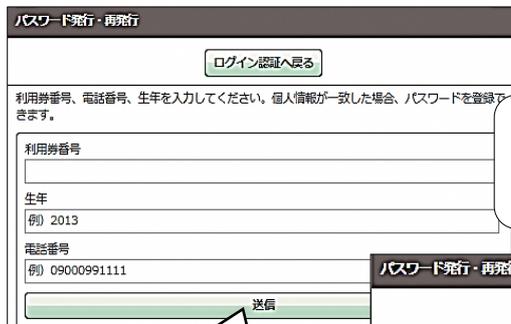
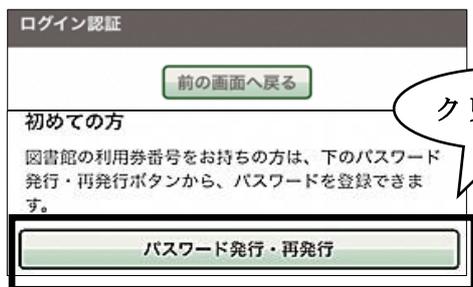
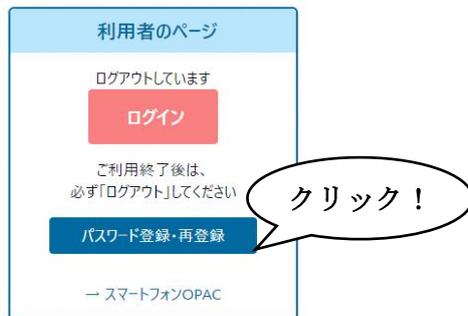
図書館の利用券をお持ちの方は、ホームページからご自身で「パスワード」の登録ができます。パスワードを登録することで、図書、CD、DVDの予約や、スマートフォンによる【利用券バーコード】の表示等、様々な機能を利用できます。

※電話番号を登録されていない方は、ホームページでのパスワード発行を行えません。利用券と本人確認書類（運転免許証・学生証等）をお持ちの上、所沢市内の図書館にご来館ください。

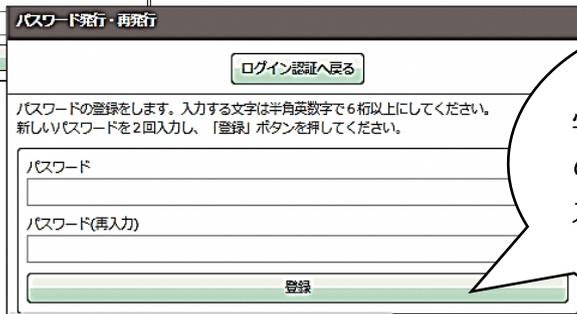
◎スマホ版でパスワードを発行する方



◎パソコン版でパスワードを発行する方



利用券番号・電話番号・生年を入力します。



半角6文字以上14文字までの英数文字混在のパスワードを2回入力して、最後にここをクリック!

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13

ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp/>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

本館	04-2995-6311 / 04-2992-1421	富岡分館	04-2943-3636 / 04-2943-6680
所沢分館	04-2923-1243 / 04-2928-8195	吾妻分館	04-2924-0249 / 04-2928-8250
椿峰分館	04-2924-8041 / 04-2928-8148	柳瀬分館	04-2944-4023 / 04-2945-7236
狭山ヶ丘分館	04-2949-1193 / 04-2949-8577	新所沢分館	04-2929-1905 / 04-2929-1906
松井小学校図書館	04-2992-2796 / 04-2992-2797		

2024年11月27日発行 復刊いずみ34号 (通巻112号)